



衛生委員会報告

■防災について

★防災とは

●防災とは、災害を未然に防止したり、災害が発生した場合の被害を最小限に抑えたり、災害の復旧を図ったりすることを目的とした対策を行うことです。地震や水害、噴火などの自然災害に備えることが一般的に防災と呼ばれますが、火事などの災害に備えることも防災の一部です。

防災には、被害を少なくするものから未然に防げるものなどさまざまな取り組みがあります。

●先月、気象庁は「大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっている」として、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表しました。幸いにも南海トラフ巨大地震は発生せず、「政府としての特別な注意の呼びかけ」は終了したのですが、内閣府と気象庁は、呼びかけの終了にあたって、「『日頃からの地震への備え』については、引き続き実施してください」と述べています。そこでこの機会に、災害に対して、どのような備えや心構えをしておくべきか、改めて確認しておきましょう。

★災害を防ぐには

●災害を防ぐためには、一人一人が災害に対する心構えを持つことが必要です。『災害は、「まさか」ではなく「いつか」は起きるもの』という意識を持って、家庭の防災対策に取り組みましょう。

●いざという時に、身の安全を守る行動をとったり、安全な場所に避難したりするためには、普段からの準備が必要です。まず、行っておくことは、殆どの地方自治体では、避難場所や避難経路などの情報を掲載したハザードマップを提供していますので、お住まいの地域や勤め先のある地方自治体のホームページなどで確認してみましょう。そして、家族のみなさんでハザードマップや地図などを見て、避難場所や避難経路、危険箇所などを確認し、実際に歩いてみて、いざという時にスムーズに避難できるようにしておきましょう。また、家族が別々の場所にいる時に地震や津波が発生した場合に備え、日頃から身を守るための行動や方法を確認し、待ち合わせ場所や非常時の連絡方法などについて話し合っておきましょう。大きな災害が起きると被災地に電話などが殺到して通信回線が繋がりにくくなります。通信各社は固定電話・携帯電話・インターネットによって「災害用伝言サービス」を提供していますので、予め利用方法を確認しておきましょう。

●大地震が発生した時には、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。寝室や子ども部屋などには、できるだけ家具を置かないようにし、家具を置く場合はなるべく低いものを置くようにし、転倒防止対策をとりましょう。また、家具が倒れて怪我をしたり、出入り口を塞いだりしないように、家具の向きや配置を工夫しましょう。家具のほかにも、窓ガラスや吊り下げ式の照明、テレビ、電子レンジなど、家の中には凶器になるものがたくさんあります。地震の発生時、それぞれの部屋にどのような危険があるのかを考えて、それぞれ対策をしておきましょう。また、寝室の手の届く所に、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう。懐中電灯は停電による暗闇を歩くときの必需品です。スリッパは割れたガラスなどの破片で足が怪我をするのを防ぎます。

ホイッスルは建物や家具の下敷きになった場合に救助を求めるために役立ちます。

- 大災害により電気や水道などのライフラインが止まっても、ある程度は自力で生活できるよう、飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大事です。また、自宅が被災して避難所で過ごさなければならない場合がありますので、避難所生活に必要なものをリュックサックなどに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるよう備えておきましょう。

◆災害時に備えた備蓄品の例

飲料水…一人1日3リットルを目安に、1週間分を用意。 マッチ、ろうそく、カセットこんろ、
食品…ご飯（アルファ米など）、ビスケット、板チョコ、乾パンなど、一人あたり 最低1週間分の食料を備蓄しておきましょう。 下着、衣類 トイレットペーパー、ティッシュペーパーなど
※飲料水とは別に、物を洗ったり、トイレを流したりするための水も必要です。日頃から水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。また、ペットのいる家庭はペットの分の備蓄も必要です。

◆非常持ち出し品の例

- ・飲料水 ・食料品（カップ麺、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
 - ・貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など） ・衣類 ・下着 ・毛布、タオル ・軍手
 - ・救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など） ・ヘルメット、防災ずきん ・マスク
 - ・懐中電灯 ・携帯ラジオ、予備電池 ・使い捨てカイロ ・ウェットティッシュ ・洗面用具
- ※乳児のいる家庭はミルクや紙おむつ、ほ乳びんなども用意しておきましょう。

★災害が起こった時には

- 地震はいつどこで発生するか分かりませんが、気象庁の「緊急地震速報」を活用することによって、強い揺れが来ることを直前にキャッチし、身の安全を守る行動をとることができます。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまで数秒から数十秒のわずかな時間しかありません。すぐに周りの人に地震が来ることを知らせ、慌てずに身の安全を確保するようにしましょう。
- 海岸近くにいる時に、強い揺れを感じたり、津波警報・津波注意報を聞いたりした時は、すぐにその場所から離れ、高台などに避難しましょう。初めて訪れた観光地などの地理に詳しくない土地でも、「津波避難場所」マークや「津波避難ビル」マークを目印に直ちに避難してください。

★会社の防災について

- 当社では各事業所にてBCPを策定しております。BCPとは「Business Continuity Plan」の略で、日本語に訳すと「事業継続計画」という意味になります。BCPは会社が災害などの緊急事態に遭遇した場合でも、事業を継続し損害を最小限に抑えるために策定する計画です。
当社の各事業所ではBCPを策定して、災害時の行動ルールを定めたり、備蓄品として食料や飲料を備えております。当社BCPの詳細につきましては各事業所にてご確認ください。

★最後に

- 「南海トラフ巨大地震」や「首都直下型地震」、「富士山の大噴火」のいずれも周期的にいつ起こってもおかしくないと言われていています。また、近年では台風や線状降雨帯などの影響による水害も多くなってきています。災害は、起こってからでは取り返しがつきません。自分や家族の命など、大切なものをなくしてしまわないように日頃からできるだけ対策をしておきましょう。